

1 教材 「うみ」 文部省唱歌／林 柳波 作詞／井上 武士 作曲

## 2 楽曲について

昭和16年に「ウタノホン（上）」に発表されて広く親しまれ、歌い継がれている。この曲は昭和52年に1年の歌唱共通教材として指定されたが、昭和55年の教科書改訂の際に、3番の歌詞の中の「うかばして」が国語科などとの関連を配慮して、現在のように「うかばせて」に改められた。

## 3 音楽的要素をもとに曲に親しみながら歌う

海を身近に感じる事が少ない地域の子どもたちに、大きく広がる真っ青な海にいるような臨場感を味わわせるとともに、「いつてみたいな よそのくに」という部分では、海の向こうへの憧れや関心なども呼び起こさせる。

「ひろいな おおきいな」などの言葉を取り上げ、海の広さやその様子を想像させ、強弱の工夫などの歌声の表現に関連させる。

## 4 手づくり楽器の教育的意義

- (1) 音を出して楽しむことそのものが音楽の原点であり、音楽教育の基盤となりうる。
- (2) 楽器の発音構造を知ることになり、本物の楽器を演奏するときのポイントを理解することになる。
- (3) 生活廃材を利用することが多いが、これは楽器の原点を理解することにもつながる。
- (4) 図画工作、理科等、他教科との接点を多くもつゆえ、それらの教科の教材にもなりうる。

### 小学校 第1学年 音楽科学習指導案

学習活動	教師の支援	評価の視点
本時の目標	広々とした海の情景や海の向こうへの憧れや関心を呼び起こしながら気持ちをこめて歌うことができる。 揺れるような3拍子のリズム感を感じ取ることができる。	
1 人工衛星からみた夜の地球や日本周辺の海の写真をみて「うみ」についての思いを高める。 ・ 海のイメージについて自由に話しあう。	○ 写真をてがかりに歌詞の表す景色や思いを考えたり、海にいった経験を思い出したりできるようにする。	
2 歌ったり体を動かしたりして、3拍子の曲の気分を感じ取る。 ・ 3拍子に合わせて体を動かしながら歌う。	○ 指導者が拍打ちやメトロノームのアプリを用い、拍子を感じながら手本を示す。 ・ 周りの友だちの音程に合わせて歌いにくい子には個別指導をする。	拍子の拍の流れや曲の気分を感じとって歌い方を工夫している。【音楽表現の創意工夫】(演奏観察)
3 歌詞の情景を想像したり、3拍子の気分を感じたりしながら、のびのびと歌う。	○ 3拍子の流れを感じ取りながら曲の気分を味わえるようにする。	3拍子の流れにのって、友だちと声をそろえて歌っている。【音楽表現の技能】(演奏聴取)
4 手づくり楽器を用い、全員で「うみ」を演奏する。	○ 輪になり演奏することで、仲間意識を深め、楽器への関心を高める。	